

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA



暮らす 障がい者と共に

楽しむ 障がい者と共に



大矢真那による取材

障がい者を応援!

シャロームみなみ風×大矢真那

布施博による取材 布施博が訊く

新宿あした会×布施博

障がいとスポーツ iba-sho / One Game

eスポーツのプロを養成

人気連載エッセイ 障がいのある息子と私

水越けいこの「M size / はじまり」

月刊メルディア
VOL.18
TAKE FREE

MELDIA 2019 JUNE VOL.18

月刊MELDIA VOL.18 2019年4月25日発行(毎月1回25日発行) 第18号 通巻18号
発行所 / 一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA GROUP

同じ家は、つukらない。



メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計
〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

25th ANNIVERSARY

まだ25年、
これからのメルディア



Would you like some coffee?

外観はシンプルでスタイリッシュな見た目、内装はカラフルでポップなインテリアでまとめられている。オシャレで可愛い雰囲気は、女性客で席が埋まるのも分かる。



COFFEE TIME

都会の真ん中に立つ ☕
 カフェ併設の福祉施設は
 東京都新宿区民の
 長い願いが込められている

元は参議院議員宿舎跡地であったこの場所。
 施設こだわりの、地域との架け橋となるこの
 カフェは人の成長に立ち会える場所。



一見すると商業施設と見紛うような瀟洒なデザインのビルは、内部に入ると明るく温もりのある空間が広がる。

旧来の知的障がい者施設の既存概念を覆すこの建物は、施設長である廣川美也子さんの夢が実現した形でもある。

東京都青梅市発祥の福祉団体ながら、東京のど真ん中の新宿区に新たな施設の建設に乗り出したのは、その背後に様々な人の思いがあったからだ。具体的にはどのような思いが込められているのかについて、大矢真那が聞いた。



**青梅市が発祥の地となる施設
公募により新宿区内にも進出**

大矢 こちらのカフェはオシャレで居心地がいい空間ですね。

廣川 ありがとうございます。そこがこの施設のこだわりでもあるんです。

大矢 まずはこちらの法人についてお聞かせ下さい。

廣川 そもそもは64年にクリスチャンである法人の代表が福祉の心を形にしたいということで、精神薄弱児のための青梅学園という施設を東京都の青梅市に建設したことからスタートしました。法人名としては社会福祉法人南風という名称です。

大矢 とても長い歴史があるんですね。それに伴う社会や必要性の変化の中で、法人も中身を変えて今に至るといっわけですね。

廣川 07年にやはり青梅に「かすみの里」という多機能型通所施設を開設しました。それから09年に共同生活ケアホームを、10年に相談支援事業を立ち上げました。その後、15年3月

人たちに見て、感じてもらえたらというのもありました。

大矢 インスタ映えるようなオシャレなメニューが多いですが、これもみなさんで考えているんですか？

廣川 基本的には職員が考えていますが、最初の頃はそれを皆で話し合っていていまし

た。例えば、メニューにアイスクリーム1個を選ぶにしてもバナナアイスクリームを5個も6個も買ってきて、利用者さんたちと一緒に試食会をして、皆がおいしいと思ったものを選ぶ、といったことを繰り返しました。

大矢 皆で一緒に作り上げてきたっていう感じなんです。

廣川 そうですね。利用者さんお客様ではなく運営者としても主体的に関われるようにして、その中で自信を付けていって貰えばと思っただけです。そうしたところ、実際にお客様に食べてもらう「おいしいね」と言ってくれて頂くことによって利用者さんたちが変わる瞬間というのを目の当たりしてきました。

大矢 廣川さんご自身はどうして福祉の世界に入られたのですか？



カフェ内で販売されているTシャツなど。これは青梅学園に入所されている人が描いた絵で、そのデザインの綿密さからとても好評だ。建物を一瞬見ただけで描く、いわゆる「サヴァン症候群」という特別な才能の持ち主だ。



社会福祉法人 南風会 シャロームみなみ風
施設長 **廣川 美也子**さん
Miyako Hirokawa

大矢 真那
Masana Oya

に、この「シャロームみなみ風」を開所したという流れになります。

大矢 元々は青梅が拠点だったわけですよ。なぜ新宿区に施設を作ったんですか？

廣川 以前ここには、参議院議員宿舎が建っていて、その跡地利用策として知的障がい者向けの施設と区営住宅を建設するということが新宿区が一般公募をしたんです。そこに社会福祉法人・南風会でも手を挙げたんですが、全国から15法人の応募があった中からウチが選ばれたというのが最初です。

大矢 こちらの「シャロームみなみ風」はどのような施設になるのでしょうか？

廣川 もともとの条件として、入所施設(定員45名)と短期入所施設(定員5名)、それと通所の生活介護施設は作るようにと言われていたんですが、法人の方で就労継続B型と相談支援事業所を加えて全体の構成を考えました。カフェはそのB型施設に当たりります。カフェを作ったのは、どうしても人の出入りは少なくなりがちな施設において、地域との架け橋として周辺の人たちと日常的に接する場になればと考えたからです。また、カフェで働く利用者さんの姿を当たり前の風景として地域の

廣川 私は大学を出てから高齢者向けの施設に就職したんですが、ある時、知的障がいのある子に出会ったんです。その出会いが大きくて、障がい者福祉の世界に入りました。

大矢 どう大きかったのでしょうか？

廣川 自分なら違ったやり方が出来るんじゃないかと感じたからです。というのも、障がいのある子どもたちというのは親から怒られ、学校の先生からも怒られ、近所や同じ子供にも怒られと、1日中怒られている人が多いんです。私も小さい頃に周囲からすごく怒られる子どもだったので、そこにとってもシンパシーを感じちゃって。私なら怒らないでいられる。なんで怒るなんてムダなことをするんだろうって思ったんですね。

**人が前向きに変わる瞬間
それに立ち会えることの魅力**

大矢 冒頭にあった「建物にこだわった」というお話も伺いたいと思います。

廣川 はい。自分の中で「ああしたい、こうしたい」という思いや考えがあつて、例えば福祉施設というと地味なものが多いんですが、ここではもっ

店内では雑貨やアクセサリーが販売されている。メニューにもあるポップコーンは、フレーバーが豊富で迷ってしまう。



一般財団法人メルディア

MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立1周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある人を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は、首都圏および中京エリアの大型商業施設や大型店舗、特別支援学校、全国の障がい者支援施設等にて無料配布しています。



04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2019年4月現在、選考会を経て選ばれた3名の若者に対するの支援を行っています。



01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにでも紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



05 サッカー観戦チケットプレゼント

Jリーグのシーズン開催期間中は、「湘南ベルマーレ」のホームゲーム観戦チケットをプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人と介添者の人、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。観戦チケットをご希望の方は巻末の「チケットプレゼント」のページに記載の要項をご覧のうえ、ご応募ください。



障がい者を応援 シャロームみなみ風



と素敵な施設にしたかったです。外装はシンプルでかっこいいもの。そして内装はカラフルで楽しいもの。全体をそのトーンで作ったつもりです。大矢 確かにこのカフェの室内もオシャレで可愛いですが、外見もシンプルでスタイリッシュな建物ですね。店内では絵やTシャツなども販売されていますよね。

描いてしまったんです。いわゆる「サヴァン症候群」という特別な才能ですね。他に飾ってある絵も独特の世界観を持つ絵で、ある絵などは、たまたまうちのカフェにランチを食べに来てくれた出版社の編集者がとても気に入ってくれて、有名タレントさんの本の表紙に採用してもらえたくらいです。それもこうやってカフェをやっているからこそ得られた出会いだったと思います。大矢 素敵で良いお話ですね。ところで、この仕事の最大の魅力はどういったところにあるのでしょうか。廣川 一番大きいのは、人が成長するところを間近に見られることです。そういう姿を見ると、この仕事をやっていて良かったなあって思います。利



用者さんだけでなく、職員も共に力を付けることで自分のことが好きになっていく。いつの間にか世間の人たちが仲間だと思えるようになることがきっかけとなって、人間が大きくなっていくのだと思っています。普通に暮らしていると、人が前向きに大きく変わる姿を目にする機会なんて、そう多くはないはず。でも、この仕事をしていけばそういう瞬間に立ち会える可能性があるということが廣川さんのお話から知ることができました。確かにやり甲斐があるお仕事だということが分かり、とても貴重な対談となりました。取材/大矢真那



社会福祉法人南風会/シャロームみなみ風
東京都新宿区弁天町32-6
TEL / 03-5579-8412
<http://shalom-minamikaze.jp>



ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、終の棲家を手に入れる喜びを「栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰しも人生は一度しかないものです。

その、一度限りの人生の夢の実現を、メルディアグループの住宅をお求めになるお客様と同じように、障がいのある人、経済的に恵まれない人、多様性のある多くの人たちの人生においても、「夢」を実現していただくための一助となれることを目標に、これからも当財団の社会貢献事業を進めて参ります。

■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)
設立者 小池信三
設立日 2017年5月23日

所在地 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F
電話 03-5381-3213
URL <https://meldia.org/>
MAIL org@gf-meldia.com



MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



知的障がいの子を持つ親たちが立ち上がり 小規模でもサービスの充実した組織に成長



社会福祉法人 東京都新宿区 新宿あした会 × 布施博

「社会福祉法人 新宿あした会」は、そのルーツを辿れば55年前に障がいのある子を持つ親らが、わずか数名で「手をつないだ」ことから始まったという。最初はあくまで親の会という任意団体でしかなかった。それが今ではれっきとした、しかも新宿区という土地にあって複数の事業も行う社会福祉法人にまでなったというのだから、まさに親の愛情の強さの表れというほかない。そうした歴史的経緯から現在の形に至るまでを布施博が訊いた。

NISHIWASEDA COFFEE

美味しいコーヒーは、煎りたて・挽きたて・淹れたてが条件です。より美味しいコーヒーをお届けしたくて、西早稲田あした作業所は、自家焙煎を始めました。NISHIWASEDA COFFEEで豊かなひと時をお過ごしただけなら幸いです。

焙煎した豆を販売することで地域の人たちとつながりを持つことが出来るようになるという意味と、コーヒー豆は扱いやすいといった条件を加味して焙煎事業を始めたという。



社会福祉法人のはじまりは 保護者による草の根活動から

布施 こちらは新宿区という土地にあって、長い歴史がある社会福祉法人と聞いています。
小山 そうなんです。まず上部団体として、63年にできた「新宿区手をつなぐ親の会」というものがあります。親の会が出来たきっかけですが、当



時は就学免除という義務教育を免除される法律があつて、障がいのある子どもを学校に通わせたくても断られてしまつたという時代でした。そこで、子どもたちに教育を受けさせたいと考える親御さん数名が集まって、行政に対して要望をし始めたというのがそもそもの始まりなんです。
布施 草の根活動として始まつたわけですね。
小山 はい。そこからいろいろな活動をする中で、全国的に同様の動きが起こっていきましました。最終的には全国組織になっていきました。

布施 当事者としてはそれは大変ですよ。
小山 そういう状況を改善したいと考えるようになったんです。そして「いつそのこと自分たちで居場所を作ろう」ということで、親の会という任意団体のまま79年に「新宿あした作業所」を、それから88年にはさらに「新宿第2あした作業所」を作りました。

小山 その前にいろいろな段階がありまして。親の会が動いたことで学校には通えるようにはなつただけでも、今度は学校を卒業したらどうなるのか？ という問題が浮上ります。近所の福祉サービスを何も問題なく利用できる人は良いんですが、場所が遠いとか、様々な人間関係で施設の利用が限られてくるというケースもあるんです。そうすると、「在宅で」ということになりまして、障がいのある子の中には大きな声を出したり、突然走り出してしまつたりという行動を起すことがあります。それが本人にとっては一つのコミュニケーション方法であつても、地域の中ではそうした行為が敬遠されることもあつて、時にはそこの生活が難しくなるんですね。そうすると、遠方の入居施設に入らないとならなかつたり、もしくは、点々と引越しをしないといけな



社会福祉法人 新宿あした会
東京都新宿区西早稲田 2-16-1
(本部署務局)
TEL / 03-5155-3340
<http://ashitakai.com/>





聞きながら運営をしている。できるというところかなと思います。ですから、法人側の利益ではなく、利用者さんの立場になって「寄り添った支援」が実現できているんじゃないかとも思いますね。

布施 当事者でないとならないことも沢山ありますよ。

小山 社会福祉法人っていうと大きな組織というイメージがあるんですが、うちは規模としては割と小さいんです。その割には、比較的多数の事業を行っています。

布施 それはニーズを優先したからこそできたということなんですか？

小山 この形にすることで大きなメリットを生んでいるからだと思います。例えばタイムケアは小学1年生から高校3年生までの学童保育ですが、小学1年生からずっと利用されていた人がやがて学校を卒業すると作業所に入ってくる。職員もグループ内を異動するので、どこの事業所に行ってもそこにいる利用者さんのことを知っていることになりました。

布施 それは利用者さんも心強いでしょう。

小山 長い期間の中でライフステージが変わったとしても利用者さんたちの多くと複数の職員たちが互いに関わることができるような有機的なつながりを生む形になっているんです。

布施 なるほど。では、難しい点や今後の課題と展望などがあれば聞かせてください。

小山 職員の確保が難しいですね。人手不足の時



取材後は実際に珈琲豆を焙煎している現場を見学。香ばしい香りがする中、小さな豆を一つ一つ丁寧に選別する繊細な作業が行われていた。(布施博)

取材／布施博



Hiroshi Fuse

Genta Koyama

布施博が訊く →

俳優 布施博

社会福祉法人 新宿あした会 事業所長 西早稲田あした作業所 特定相談支援事業所ごまーに 小山元太さん

制度化がされて、我々のような職員が保護者さんたちに代わって施設内で働くようになりました。

布施 それでやっと法人化するわけですね。

小山 作業所だけではなく、もつといういろいろなサービスを展開したいと親の会は考えたんです。でも、任意団体では税制上の問題などがあり、事業所を運営していくには限界が生じたんです。それだったら作業所を作ったのと同じように親の会で社会福祉法人を作ってしまったということ、社会福祉法人「新宿あした会」を立ち上げたんですよ。

布施 また自分たちで作ってしまったと？

小山 はい。作業所の運営は法人に任せますが、全部を委任するのではなく、引き続き行政にいろいろな要望をする運動体として啓発的な活動を継続しました。その中で得られたサービスや予算などを利用して、地域で必要なものを具体的に事業として作っていくのがあした会という、事業体と運動体が車の両輪となって新宿の中で運営していくという形になっています。

布施 現在では多くの事業を展開されているようですが？

小山 現在は3つのB型作業所と指定居宅介護事業所、障がい児等タイムケア事業所、グループホーム、特定相談支援など計7つの事業を行っています。作業内容としてはクリーニング、クッキーとパウンドケーキの製造、印刷関連の軽作業などです。それから3つ目の作業所ではコーヒーの焙

煎作業を行っています。

布施 コーヒーですか。

小山 コーヒーの焙煎を始めたのは、新しい作業所に魅力を持たせたいということと、焙煎した豆を販売することで地域の人たちとつながりを持つことが出来るようになるという意味から選びました。それと、焙煎して今では電気式の良い機械があつて、ボタンで設定するだけである程度おいしい味に仕上がります。それならば、知的障がいのある利用者さんも仕事として関わる事ができるだろうと。また、パンやクッキーの製造には材料や賞味期限の管理が大変なところがあるんですが、コーヒー豆は扱いやすく、長期保存ができるんです。そういった諸々の条件を加味して焙煎事業をスタートしました。

ニーズを優先した運営の結果 組織内に人的つながりが形成

布施 なるほど、いろいろと工夫されているんですね。それとも合わせ、こちらの法人の特色はどんなところにあるんでしょうか。

小山 そもそも親の会という当事者が作った法人なので、利用者さんのニーズをダイレクトに



※編注／本文中の表現は被取材者と取材者の個人的な意見や感想であり本財団ならびに月刊 MELDIA の公式見解ではありません



フレームと展示場所がなければ
アートは完成しない
それはアート作品のみならず
人間にも当てはまる



芸術家の伊藤七男氏は、自身のアート活動と並行して、児童や障がいのある人を対象としたアート・ワークショップで講師も勤める。障がい者アートに対しての造詣が深く、障がいのある人たちの作品に芸術的な価値を認め、これまでも多くの障がい者アート展の開催と運営に尽力してきた。この春、長きに渡って勤めた大学の教授職を辞し、これからは芸術活動に専念するという伊藤氏。退職を記念した個展が栃木県佐野市で開催されるのを聞き、これ取材した。



アーティスト対談

芸術家 伊藤 七男 × 脚本家・演出家 渡邊 希望

レイアウトもアートの一部
作品だけでは完成できない

渡邊 画廊と聞いていましたが、内部は民家のよ
うな雰囲気のところですね。

伊藤 ええ。展示作品との調和が計れるようにと、
ここを選びました。

渡邊 確かに、この空間に作品が違和感なく置か
れている感じですね。

伊藤 恐らく一般的には、どうしてもその作品
のみで「出来栄え」を評価されてしまいがちと思
うんですが、展示の方法やレイアウトというのは作
品自体と同じくらい重要なんです。

渡邊 それでは早速お話を伺っていききたいので
すが、伊藤さんは障がいのある人たちに向けたア
ートのワークショップで講師をされることがあるとの
ことですが、彼らが描く作品についてどう思われま
すか？

伊藤 とても魅力的だと思います。子どもが何も
先入観が無い状態で描く絵に似ているようでいて、
でもどこか違うところがある。

渡邊 何がどう違うとお考えですか？

伊藤 子どもって、ある程度まで絵を描くとすぐ
に飽きてしまうということが良くありますよね。
一方で、障がいのある人たちの中で絵を描くのが好
きだという人たちは類い稀な集中力で一心不乱に
絵を描き続ける人が多いんです。



芸術家 / 元・足利短期大学
こども学科 教授
伊藤 七男さん
Nanao Ito

脚本家 / 演出家
渡邊 希望
Nozomi Watanabe

渡邊 知的障がいのある人が自身の興味があるこ
とに対して非常に高い集中力を発揮するケースが
多いというのは良く耳にします。

伊藤 彼らが持つ、作品を描く・作ることに没頭で
きるという力が芸術作品としての価値を押し上げ
ているのだと思います。長時間に渡って集中力を維
持しながら作品を作り続けることが可能だとい
う彼らの力にはプロの芸術家でも敵わないんじゃない
かと思いますよ。

渡邊 確かに、これまでの取材の中でアートに携わ
る障がいのある人たちの多く取材してきました
が、その人たちの作品って、完成までに掛かった時
間や労力、集中力が作品から見取れるし、作品の
モチーフとも相まって鑑賞する側に強く訴えてく
る力が感じられます。

伊藤 そうですね。素晴らしい作品が多いです
ね。ただ、素敵な作品も、展示の仕方やレイアウト
などの「見せ方」に拘らないと作品の魅力が半減し
てしまうんです。その作品を作ったアーティストさ
んの、例えば障がいの種類であったり、作品を作
った経緯であったり、そういう部分も知っておいた
うえで、「どう見せるべきか」を考える必要もあるん
です。

渡邊 作品が作られたバックグラウンドを知って
いるか否かで受ける印象も変わりますよね。

伊藤 アート作品で、並べられた作品を単に観る
だけでなく、額縁（フレーム）や展示される場所な
どの環境をも含めて鑑賞するものなんですね。

僕自身、展示会場の下見をして、その場所の雰囲気に合わせて作品を作るといことも珍しくないです。それから、渡邊 作品の額縁だったり、作品を展示したり鑑賞する場所もアートには重要なですね。

作品の「器」となる「環境」 それは与えられるべき権利

伊藤 例えば、ある料理があったとしても、そこに器が無くては食べることが出来ないですね。料理は器に盛られてこそ初めて「料理」として完成します。アート作品のフレームや展示場所などの要素は、その作品の「器」に当たるんです。つまり、アート作品にとつては必要不可欠で、しかも大切な要素なんです。

渡邊 なるほど。
伊藤 障がいのある人たちが何か作品を作ったとしても、何らかの理由でそれを発表できないのであれば、それはとても勿体ないと思うんです。彼らが発表する手段を持たないのであれば、誰かが手を貸してあげなければならぬと考えます。プロデュースしてあげられる人が、彼らの手伝いをしてあげれば良いだけなんです。
渡邊 確かにそうですね。

伊藤 「器が大切」という考え方は、アートの領域だけの話ではなくて、この世の全てにおいてそう言



障がい者アートに直接触れて来た伊藤氏。「絵は描き上げるだけで完成ではなく額に入れて展示して他者に観てもらうことで完成する」とも語る。

えるのではないかと思います。

渡邊 「この世の全て」というのは？
伊藤 例えば、僕たちが今着ている洋服もそうですよね。服って「自分が他人にどう見られたいか？」という、自身をプロデュースするために重要な器でしよう？

渡邊 言われてみれば確かにそうですね。
伊藤 他にも「人の器」という言葉があるように、私たち自身が何かの器なんだろうとも言えます。それに、僕たち人間も「環境」という器の中にもいるとも言えるんじゃないでしょうか。

渡邊 「環境が人間の器」ですか。それは面白い考え方だと思います。
伊藤 ある人の人生が、環境という器によって大きく左右されていく。アート作品もそうです。あらゆるものには「器」があって、それによる影響をとても強く受けているんだと思います。

渡邊 そうだと思います。
伊藤 「障がいのある人たちにとつては？」と考えるとうようなか、ですよね。障がいがあるということだけで、健常者が当たり前に享受でき



※編注／本文中の表現は被取材者と取材者の個人的な意見や感想であり本財団ならびに月刊 MELDIA の公式見解ではありません



可能性を切り拓く小さな器も 多く集まれば大器へと変わる

渡邊 彼らは完成された何かを既に持っているのだから、それを入れる器を周囲が用意してあげれば良いということですね。

伊藤 その通りです。可能な人がそれを手伝ってあげるだけで良いんです。

るはずの環境という器が彼らには正当に用意されているのかと疑念を抱かざるを得ません。
渡邊 器そのものが無い可能性もある？
伊藤 障がいのある人たちにとつては理不尽に十分である場合も時にはあるのではないかとこの感覚を覚えています。
渡邊 なるほど。
伊藤 僕がこれまでに触れてきた障がいのある人たちの感性の中には「既に完成された何か」がありません。しかし、誰もが持ち合わせているはずの「器」を持っていないという理由で、彼ら自身も、彼らが作る作品も、正しく評価をされていないのだとしたら、それは大変に残念なことだと思っんです。

渡邊 分かりやすく言い換えると、例えば子どもが自身で描いた絵を多くの人に見てもらいたいと希望しても、その子どもだけで、企画して、作品を集めて、展示場所を探して、スケジュールを決めて、とまでやるのは難しい。そういう場合には周囲が手を貸してあげれば良い、と。そういうことですね？

伊藤 言葉は悪いかもしれませんが、子どもたちや障がいのある人たちというのは現状では「社会的弱者」と呼ばれるカテゴリーに含まれるのかもしれない。だから、渡邊さんが言う「器を用意してあげれば良い」というのは正にその通りだと思いません。それが無い、それを用意できない、という理由だけで作品の発表さえできないのであれば、とても勿体ない。

渡邊 そうですね。
伊藤 人間は、様々なことを幅広く経験していく中で成長していくものです。障がい・健常を問わず、誰もがより大きな器の中で、人としての器を大きくしていけたら良いなと思います。



■ 取材後記

本来なら誰もが平等に得られるべき環境を何らかの不当な理由で得られないのだとしたら、どうだろうか。もっと具体的に書くとすれば、衣・食・住、教育、仕事などが十分に享受できない状況に置かれているとしたら？ そう考えると、今回の伊藤氏の話はより身近に想像できるのではないだろうか。障がいを抱える人たちの中で、自身が持つ能力を発揮することが出来ない人たちが少なからずいる。だから、彼らが内包している能力を発揮できるよう、周囲の人が手を貸し、器（受け皿）を用意してあげるべきだ。最初に用意するのは小さな器でも構わない。小さな器が集まれば、それだけ多くの何かをそこに容れることが可能になるのだから。



最近まで教壇に立っていただけあって、伊藤氏の話は分かりやすく、説得力が高い。退職後に専念するという氏の芸術活動を本誌では今後も追って行く。



はじまり

水越けいこ連載

18



シンガーソングライター
水越 けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と講演活動を続けている。

息子は春から新たな場所へ 新しい挑戦との「はじまり」

ダウン症を持つ息子・麗良(れいら)は、2年間お世話になった就労移行支援事業所を3月末で退所し、4月からは就労継続B型支援事業所に通所することになりました。この事業所に腰を落ち着かせつつ、就労に挑戦させてみようと考えています。

これまでに就労の機会が無かったわけではありませんが、実は今年の2月に、とある会社の面接に合格して、実習が出来るという状態にまで行っていたのですが、諸事情を鑑みて就労を辞退させて頂きました。

その会社での業務スケジュールは、午前7時に出社し、午後2時に退社するというスタイルでした。午前7時までに出社させるには午前5時に

息子を起し、身支度を整えさせ、午前6時には家を出すと、というサイクルになります。

彼自身も、そしてサポートする私も、こういったルーティンに慣れることが出来るのだろうか、果たして長期に渡ってこれを維持できるのか、と不安な気持ちに駆られてしまいました。

結果、とても有難い案件ではありましたが、今回は残念ながら就労を辞退させて頂くことになりました。就労予定だった会社の人たち、支援事業所の職員の人たちには感謝とお詫びの気持ちでいっぱいです。

言い訳のようになってしまっていますが、朝早い時間に出社させなければならぬことが就労を辞退した理由の一つでした。我が家は都心から少し離れた場所にあります。朝のラッシュアワーで大変混雑が激しい区間を利用しなければなりません。さらに、交通量がとても多い道路を経なければいけません。

ば就労先へ行くことができません。

混雑した駅や電車、交通量が多い道路などを利用しなければならぬのは都内に住んでいれば当たり前のことではありませんが、ダウン症を持つ息子には不安の種が万幸絶えません。

それならば、いっそのこと他の地域に転居すれば良いのかも知れませんが、現状ではそう簡単にはいきません。

私と息子がこれまでに長い時間を掛けて構築してきた友人たちとの関係、それに仕事などは東京を中心に成り立っています。転居して他の地でこれらを再構築できるか自信がありません。何よりも息子が穏やかな気持ちで暮らせる場所、それが現在の地域だからです。

息子の就労先が決まるまで、まだもう少し時間が掛かるかもしれませんが、この先も努力と挑戦を続けていきたいと思っています。

丁寧に根気強く教えることで 誰でも必ず成長を遂げるはず

ご存知の人がいらつしやるかも知れませんが、音楽の世界を志す生徒に「音楽のあれこれ」を教えるという音楽講師の仕事は週に1回くらいのペースでやっています。

私の本職はシンガーソングライターですから、自身の楽曲を創作したり、他のアーティストに楽曲を提供するなどは、これまでも数多く行ってきました。でも、音楽を「創る」ということと、それを他の人に「教える」ということでは方法論からして違います。

例えば、音楽が私にとって得意なジャンルであったとしても、それを他の人に上手に教えられる

か、どうやれば感性を引き出してあげられるのか、それを具現化する方法をどう伝えれば良いのかなど、「音楽を創る」という能力と「音楽を教える」という能力は別の次元のモノであると思います。音楽は「テクニック」はもちろんです、それより更に「感性」の部分の比重が大きく、個々のイメージーションの総量にも左右される分野です。よって、最初は授業をすることに不安があったのも事実でした。

私が初めて授業を行ったのは今からおおよそ12年前。シンガーを目指す10代後半の生徒たちのクラスでした。生徒たちとは世代が離れているせいか、教える側の私が刺激を受けることもあった、良い経験と勉強になりました。新鮮な感性に触れる機会も度々あって、授業を行うのが楽しみにもなっていました。

最近では作詞のアドバイスをする授業も行っています。生徒が書いた歌詞を眺めていると、時に懐かしく、甘酸っぱい情景が行間に浮かぶことがあります。

青春真っ盛りとも言つべき生徒たちの感性はとても新鮮かつ熱量があって、時には音楽に長年携わってきたプロとしての私にも響いてくる「何か」が存在しているのを感じさせてくれます。その「何か」が私の情感を刺激することもあって、それが私の音楽制作の糧にもなっているような気さえします。

生徒たちに音楽を教えること、障がいのある

息子を育てること、この2つは同じではありませんが、両方に共通していることがあります。それは「人は必ず成長できる」ということ。

教える側・大人が根気強く、丁寧に教えてあげること、教わる側・子どもは必ず成長していきます。身体と精神(こころ)の成長度、知識や知恵の吸収度などは個人差があって然るべきですが、必ずいつかは誰でも成長していくものなのだと思います。

自分以外の人に何かを教えるという行為は自分自身との対話にもなります。教えを受けた相手も成長しますし、教える側も成長させてくれます。これからも、息子にいろいろなことを教えていくこと、生徒に音楽を教えることで、私も一緒に成長したいと思っています。



水越けいこ「僕が気持ち」絶賛発売中!





eスポーツという新しい風で障がい者に「生きがい」創出

大橋 「eスポーツ」のプロを養成する福祉事業所というのは珍しいなと思いました。

中村 そうですよ。障がいのある人たち自身がプロとしてのスキルを身につけてつづ、楽しむことも出来る「ゲーム」を取り入れた福祉事業所は今までに無いと思います。

大橋 障がいのある人たちにeスポーツを教える事になったきっかけを教えてください。

中村 ここを運営する株式会社ワンライフの社長・市村には「障がいのある人に生きがいを提供し、前向きに生きて行くためのお手伝いをしていきたい」という思いがあったようで、その実現のためにこの事業所を開設して、eスポーツプロ養成所を置いたのが始まりですね。

大橋 eスポーツは国内でもプロチーム設立の動きが盛んですよ。

中村 はい。eスポーツを取り上げる時によく「老

若男女問わず楽しめるゲーム」と言われていて、その中にはもちろん「障がい」も入っても良いはずなんですよ。他の一般的なスポーツと違って、身体をそれほど動かさなくてもプレイすることが出来るという意味ではeスポーツは障がいのあるなしは関係なく皆が平等だと思っています。

大橋 確かにそうですね。

中村 海外では既に障がい者プロゲーマーがeスポーツ界で活躍していますが、日本にはまだ障がい者のプロゲーマーがいないんですよ。

大橋 日本国内にはこちらと同様の施設が他にまだ無いんですか？

中村 国内ではおそろしくここだけだと思います。少なくとも、福祉事業所内でプロゲーマーを養成しているというのは聞いたことがないですね。

大橋 他に例が無い事を先駆けてやっているという事ですよ。

中村 「障がいがあっても世界と互角に戦える、活躍できる」という前例を作っていかなければと考えていますね。それを広めるためにも、利用者さんたちと私たちスタッフとで一緒に頑張っているところです。

大橋 現在は何人に教えているんですか？

中村 今のところは4名ですね。この先に利用予定の人たちが数名いるので合わせて7名になる予定です。

大橋 施設が新しくキレイで、設備やサービスも充実しているし、しかもeスポーツの障がい者

プロゲーマーを養成しているなんて聞いて、今までに無かった福祉事業所だから、もっと通所希望者が殺到するのではないのかなと思っていました。

中村 メディアなどに取り上げて頂くことが多いのもあって、問い合わせ数はとても多いです。ただ、ここは区分が通所施設になるので、「通える方」のみとなると数が限られてしまうんですよ。それと、ここは生活介護事業所なので、障がい支援区分が3以上の人でないと利用が出来ないという決まりがあるんです。

大橋 利用者が限定されてしまうんですね。

中村 恐らく、ここが東京だったら状況も違ってくると思うんですよ。でもここは群馬の田舎なので(笑)

大橋 群馬県伊勢崎市に障がい者プロゲーマーを養成するって、先進的な事業を行っている福祉事業所があるなんて、それさえ知らない人が多いかもしれないですよ。

中村 事業を立ち上げるのを聞いた時に私も驚きました。かなり斬新だと思います。

e-sports プロゲーマー養成所



iba-sho / One Game e-sports コーチ
中村 恭子さん
Kyoko Nakamura

モデル・タレント・ライター
大橋 はるか
Haruka Ohashi

様々なメディアでライターやモデルとして活動。アミューズメント機器メーカーの公式コスプレヤーも務めるなど、その活躍は多岐に渡り、多くの分野で才能を発揮する。

株式会社ワンライフ / 群馬県伊勢崎市

努力で身に着けた スキルだけがモノを言う競技 世界と互角に戦う 障がい者プロゲーマーを養成



国内外でプロチーム設立の動きが著しい今話題の「eスポーツ(エレクトロニック・スポーツ)」。パソコンなどの電子機器を用いて行う競技やスポーツの全般を指す言葉で、世界大会も開催されるなど、対戦競技の新ジャンルとしても耳目を集めている。本誌と関係が深いJリーグの湘南ベルマーレでもサッカーゲームの「FIFA19」への参入を表明している。このeスポーツの競技者として活躍する障がい者の「プロゲーマー」を養成するという日本初の障がい者施設が群馬県伊勢崎市にある。本格的なデバイスを備えた部屋で、世界大会でも活躍するプロチームのメンバーから技術指導を受けられるという。この施設で日本初の障がい者によるeスポーツプロチームの結成を目指すというコーチの中村恭子さんにお話を伺った。

取材&文/大橋はるか



障がい者用デバイスが少ない
競技普及へ機器自作も視野に

大橋 中村さん自身、元はプロゲーマーだったとお聞きしましたが？

中村 はい。私はプロのeスポーツプレイヤーとして活動をしていました。

大橋 障がいのある人たちにゲームを教えることになった時はどう思いましたか？

中村 それまで障がいのある人と接する機会が無かったのも、もちろん不安はありました。でも、実際に彼らに教えてみると、皆さんとてもモチベーションが高いことが分かったんです。教えることにグングンとゲームプレイが上手くなっていくのが体感できたんですね。私が彼らの力にないているのかどうかは分からないのですが、「ここに来てから人生が変わった」と言ってくれた利用者さんもいて、それ以降は不安はなくなりましたね。

大橋 きっと、教え方が良いからこそ利用者さんがそう言ってくれたんでしょうか？

中村 そうだと良いんですけど(笑)。とにかく今は、利用者さんが不自由なくここでプレイが出来るように頑張ろうと私自身のモチベーションも上がって来ました。

大橋 これまで障がいのある人たちに指導してきて、何か問題点などはありましたか？

中村 障がいのある人たちが参加するeスポー

障がい者eスポーツ大会開催
同じ仲間を募って大きな力に

大橋 今後の展望をお聞かせください。

中村 今やっているこのゲームの公式大会に出る事はもちろん目標なのですが、まずはこの事業所主催で障がい者限定の大会を開こうと思つて企画をしています。

大橋 それは良いですね。

中村 現状では障がいのある人で同じゲームをやっている人がどれだけののかも未知数のので、まずは大会を開くことでどれだけ障がいのある人たちが同じゲームをやっているのかを把握できますから。

大橋 確かにそうですね。

中村 その大会で出会った障がいのある人たちとも協力や連携をして、今後も一緒にゲームをやつていけたら良いなと思います。

大橋 最後に、本誌の読者に向けてメッセージをお願いします。

中村 お問い合わせの電話を頂く時に、「自分には出来ないかもしれないですけど」と言う人が多くおられます。でも、「出来ないことを出来るようにしてあげるように補助する」のが私たちの仕事なので、障がいがあることを理由にして諦めたりせず、一度私たちに相談してみてください。

大橋 心強い！障がい者eスポーツが盛り上がるよう私も応援しています。



「障がい者向けの補助デバイスが少ないので自作も考えています」と語る中村さん。その言葉にはプロとして「コーチ」としての「熱さ」が込められていました。



ツがまだ浸透していないというのがありますが、ゲームをプレイするための補助的な福祉機器がまだまだ充実していません。手や足の不自由な利用者さんが使っている「口マウス(※)」も海外から取り寄せたものなんですよ。日本だとまだそういった機器の流通や普及が少ないですね。国内にあつたとしても価格が海外の4倍以上にもなるものもあります。

大橋 そんなに価格差があるんですね！

中村 そうなんです。だからこそ、ここで障がい者eスポーツの事例を作つて、障がいのある人に「ゲームなら出来る」と思つて貰えれば、こういったデバイスの開発も促進されるし、もっと普及していくのかなと思いますね。

大橋 そうかもしれないですね。

中村 ある作業療法士さんがいて、その人も私たちと同じゲームのプレイヤーなんです。その人が自身の勤める病院で筋ジストロフィーの患者さん向けに、肢体に不自由がある患者さんたちでもゲームをプレイできるようにと、デバイスを自作しているんです。その作業療法士さんに協力を仰いで、今後は私も自作のデバイス作りにも挑戦していこうかなと思っています。

大橋 自作だなんてとても難しいそうですね。

中村 そうですね。でも、間違いなく障がいのある人たちの個々に合ったものは作れると思えますし、国内でデバイスが揃えられないとなると、今は自作で補うしかないですから。

取材後記

「コーチを依頼された時に悩んだのが嘘みたいに今は楽しいです」と語る中村さんの様子から、利用者さんとの良好な関係性までもが伺い知れました。利用者さんの腕前もどんどん上達しているようで、ここでの練習の他に、ゲームの攻略法やチーム戦略についてを自宅でも自主的に調べたりするほどのモチベーションの高さであるといえます。ゲームに本気で取り組む利用者さんたちがいるからこそ、中村さんは「自作デバイス作り」という難しい課題にまでも挑戦しようとしているのではないのでしょうか。

日本初の障がい者プロゲーマーが輩出される日も遠くないのではないかと、思いました。

取材＆文／大橋はるか



iba-sho / One Game
(運営:株式会社ワンライフ)
群馬県伊勢崎市西久保町3丁目1040-1
TEL / 0270-75-3476
<https://onelif-inc.com/onegame/>





実際にプレイしている様子。
口元の機械がコントローラーだ。



部員から取材を先に進める
でもしているかのように語り合っ
てしまいました。同行した編集

か、気付けば過去に人気を博していたRPGのタイトルが私と越塚さんの両方の口から次々と飛び交い、それらの内容について旧友と昔話

もしているかのように語り合っ
てしまいました。同行した編集
部員から取材を先に進める

かし、キャラクターを操作していました。
あつという間に15分が経ち、ゲームも予定通り
一段落して、対談を始めました。
越塚さんは現在31歳、私と同じ歳です。現在は
「i-ba-sho」でeスポーツのプロを目指して
トレーニングを受けていますが、昔からゲームが
好きだったと言います。中でも、RPG(※)が好
きたとのこと。
実は私もプレイしてきたゲームの殆どがRPG
だったのです。同じ歳で同じRPG好きとあつ
て、話が瞬く間に盛り上がりました。私は越塚さ
んと初対面であることを忘れ、友だちと言葉を
交わしているような感じでした。

※RPG/ロールプレイングゲーム



障がい者の「声」を聞く

つむぐ

～こえをきく～



取材・文 渡邊 希望 俳優・脚本家・演出家

1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年に「劇団ショートホープ」を立ち上げる。俳優・脚本家だけでなく、演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。ハイペースで脚本&演出をこなし、その舞台はいずれも好評と人気を博している。



前ページでも記事になっている「i-ba-sho」。この施設の利用者さんに話を聞いてきました。取材に応じてくれたのは「越塚竜也(こしづか・りゅうや)」さんです。彼はある障がいを抱えています。ここで行われているeスポーツのプロゲーマー養成に大きな希望を感じているのだそうです。

諦めかけたことをもう一度 eスポーツで新たな希望を

約束の時間に訪ねると、越塚さんはゲームプレイの真つ最中でした。その場にいたスタッフの方から、あと15分ほどで1ゲームが終わると聞き、ゲームが終了するまでの間はプレイ画面を覗かせてもらっていました。

私も学生時代には良くテレビゲームをやっていました。越塚さんがプレイしていたゲームは知らないものですが、比較的分かりやすいルールのゲームだったので、私も飽きることなく、ゲームについて少し質問などをしながら見学をさせてもらいました。

越塚さんがゲームを操作していたコントローラーは普通のものとは違いました。パソコンに繋がれたアームが口元まで伸びていて、その先端を啜えながら口でコントローラーを上下左右に動

と答え、「辛いというよりは苦しいという感じ」なのだとも付け加えました。
越塚さんは「i-ba-sho」を利用しての感想についてこう話してくれました。

「障がいによって徐々に身体を動かせなくなっていく、ここを利用するまでは全くと言っていいほど自分で出来ることはありませんでした。当時の僕は、このまま何も出来ないのだと人生を半ば諦めていたくらいです。それがここに来て、ゲームをプレイするための道具も揃えてもらって、今は自由にゲームをプレイできるようになりました。それが僕に大きな希望を持たせてくれました。大袈裟ではなく、人生に対してもう一度挑戦していきたいと思えるようになったんですよ」

何も出来ない状態から何かが自由に来るようになったという変化は、人にとってどれほどの「希望」となり得るのでしょうか。

eスポーツの持つ可能性と、楽しみながらゲームをプレイする越塚さんの姿がとても印象的な取材でした。



※編注/本文中の表現は被取材者と筆者の個人的な意見や感想であり
本財団ならびに月刊MELDIAの公式見解ではありません

越塚さんと話している最中、私は

時間が経つのを忘れてしまったかのようでした。

初めて会った人であるはずなのに、

それを異ともせず、好きなものを好きなように話せてしまう。

お互いの何かが自然にスツと溶け合っていくようなこの感覚は、

読者の皆さんにもきつと覚えがあるかと思えます。

また、越塚さんの口ぶりから、

彼が今、人生の中で楽しい時間を過ごさせているのだ

ということが強く感じられました。

そんな越塚さんと話していると、

ごく自然にこちらも笑顔になっていきます。

そんな自然な空気感の移り変わりが、私には

流れる水のように感じられました。

また、「一人になりたいのになれない」

という越塚さん自身の言葉からも私は何か

強い思いを感じることができました。

そこで、今回の物語は

「独りと水」をテーマにしてみました。



水を撒く

夏休みも終わりがけの正午、快晴の中、少年はバケツの水を坂道にぶちまけた。そして空になつたバケツをそこに投げ捨て、その場にしゃがみ込み、流れて行く水の行方を見つめた。

水は勢いよく坂道を降りて行った。水は水を踏み台にして進んでいった。何かにぶつかれば、その度に方向を変えてまた進んだ。水は自由気ままに、行ける先を選択していく。

進むにつれて、水は勢いをなくしていった。どんどん進む力が弱くなって、小石にぶつかっただけで止まってしまう水も増えてきた。最後には止まるだろう。しかし止まるその時まで、絶対に止まらない。

そして進む力を無くし、最後には水はその場から動かなくなる。力強い一つの塊だったその水は、平たく弱々しい水になり、今は照り付ける太陽にあらがうことは出来ない。

少年は立ち上がりバケツを拾うと、そこには僅かながら水が残っていた。バケツに残った水を数滴、最初にぶちまけた水の上に垂らした。その数滴は一瞬で地面の水と交わり、その姿を消した。

少年は坂道を下り、水が止まったその場所までたどり着いた。動かなくなった水の先端は少しだけ水が溜まっていた。

しばらく見ていると、少しだけその先端が動

いた。上からまだ流れていた少量の水が少しだけ先端を前に進めていた。

少年は川を想像した。その水は止まることなく進み続け、やがて海と合流し、蒸発した水が何十年という時間を掛けて雨となり、何十年を掛けて地下水となり、何十年をかけて湧き水になり、やがて川になる。

水は絶えず変化する。自由に、そして何物にも逆らわず。

少年はふと疑問に思った。自由に、そして逆らわず、とはどういうことなのだろう。

流れていた水はどんな隙間も見逃さなかった。自分の行ける道を的確に選択し、もっとも長く、そして速く進める道を選択し続けていた。

しかし、水は何物にも逆らわない。ひたすら重力に従っている。通れなければ止まるしかない。水が足りなければ進むのをやめる。太陽に逆らわず、上空へと消えていく。

それでも逆らわない。重力と気温により、わずか儘の変化を続ける。

少年は止まりかけの水の先端を相変わらず見つめていた。すると急に水が前へと進んだ。強い風が吹いていた。水が自由なのか不自由なのか、少年は分からなくなった。

少年は真夏の日差しを浴び続け、汗で服が体に張り付いている。顔から出た汗は顎を伝い、地面に垂れた。その水滴もまた、坂道の水の先

端を少し押し進めた。

少年はその坂道を後にした。一度振り返ると、坂道は陽炎により揺れていた。

家に帰り、水を飲んだ。そしてコップに残った水を光にかざした。

水の揺らめきに合わせて光も揺れた。光も同じだ。自由で、そして逆らわない。

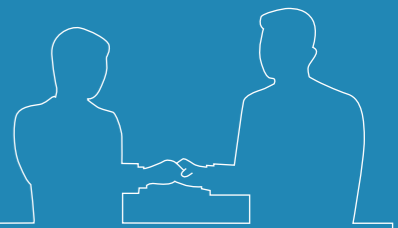
外は夕方になっていた。少年の夏がまた一つ終わろうとしている。

少年が浴室に入ると、そこには優しい気な水の塊があった。浴槽につかりながら、少年は風呂の栓を抜いた。すると、優しくだった水がみるみる動き始める。自分を温めていた水が何にあらがうこともなく流れていく。肩まであった水位が胸の下あたりまで来た辺りで、少年は少し恐怖を覚えた。

夜、少年は布団に入った。暗い自室で今日あったことを思い出していた。流れる水と、降り注ぐ光。そして、坂道に出来た陽炎。

夜も明けきらぬ朝、少年はコップになみなみと水を注ぎ、それを2杯、一気に飲み干した。急いで着替えて、まだ夏休み中の少年がいつも通っている学校へ走った。

学校へ着くと太陽はその8割が見えていた。少年はあたりを見回し、誰もいないのを確認してから、水飲み場の蛇口にホースをつなぎ、校庭中に水をまいた。水と光を見ているうちに、どうしても虹を作りたくなったのだ。



障がい者と家族の法律問題④ 遺言がない場合の相続



表参道パートナーズ法律事務所
弁護士／安部 晃平

1986年福岡県出身。2012年上智大学法科大学院修了。2013年弁護士登録。2016年より現職にて、中小・ベンチャー企業の労務管理、訴訟を中心に、各種企業法務を取り扱う。表参道パートナーズ法律事務所所属。

誰が相続人になれるのか 「法定相続人」とは何か

前回までは、相続が発生した場合に相続人同士で争いが起きないように、遺言を作成することをお勧めしてきました。しかし、現実には遺言が作成されないまま相続が発生することが多いのが実情です。それでは、遺言がない場合にはどのような形の相続になるのでしょうか。

今回は、遺言がない場合に

- 1 誰が相続人になるのか
- 2 どれくらい相続するのか

まず、遺言がない場合に誰が相続人になるのかというお話です。法律で相続人になると定めら

れた人を「法定相続人」といいます。

法定相続人として一番に出てくるのは配偶者です。被相続人(亡くなった人)が夫である場合はその妻、被相続人が妻である場合はその夫のことです。

被相続人に配偶者がいる場合、配偶者は常に相続人となります。被相続人が亡くなった時に既に離婚している場合、元配偶者は相続人にはなりません。また、内縁の配偶者には相続が認められないというのが一般的な見解です。

次に、被相続人に子がいる場合は、子が相続人となります。そして、被相続人が亡くなる前に、その子が既に亡くなっている場合で、その子にも子(被相続人から見た孫)がいる場合は、孫が相続人となります(代襲相続といえます)。子が法定相続人となるためには、その子が実子であるか養子であるか、嫡出子であるか非嫡出子(婚姻

関係のない男女から生まれた子)であるかは問いません。

被相続人に子がいない場合は、被相続人の直系尊属(被相続人よりも上の世代の人)が相続人となります。直系尊属は第一次的には被相続人の両親ですが、被相続人の両親が既に亡くなっている場合は、被相続人の祖父母になります。

最後に、被相続人に直系尊属もいない場合は、被相続人の兄弟姉妹が相続人となります。被相続人が亡くなる前に、その兄弟姉妹が既に亡くなっている場合で、その兄弟姉妹に子がいる場合は、その子が相続人となります(代襲相続)。

- 1 子
- 2 直系尊属
- 3 兄弟姉妹

という順番で法定相続人が変わっていきますが、配偶者はこれらの人と同時に常に相続人となります。そして、実際に誰が法定相続人となるかは被相続人が亡くなった際に戸籍を取り寄せて調査することになります。

どれくらい相続するのか 「法定相続分」とは?

相続人となった人が、どれくらいの割合で財産を相続するのかというお話です。法律で定められた相続割合を「法定相続分」といいます。

まず、配偶者と子が相続人となる場合、配偶者は相続財産の2分の1を相続します。残りの2分の1は子が相続することになりますが、子が複数人いる場合は、その2分の1を子の人数に従って等分します。実子であるか養子であるか、嫡出子であるか非嫡出子であるかに関わらず等分です。

次に、配偶者と直系尊属が相続人となる場合、配偶者は相続財産の3分の2を相続します。残りの3分の1を直系尊属が相続することになります。直系尊属が複数人いる場合に、その3分の1を直系尊属間で等分することは、子の場合と同じです。

最後に、配偶者と兄弟姉妹が相続人となる場合、配偶者は相続財産の4分の3を相続します。

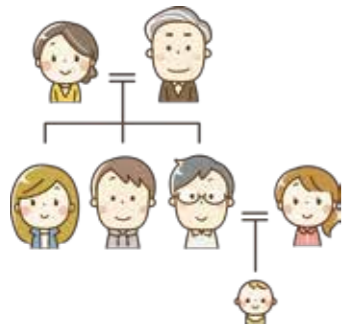
残りの4分の1を兄弟姉妹が相続することになります。兄弟姉妹が複数人いる場合に、その4分の1を兄弟姉妹間で等分することは、子や直系尊属の場合と同じです。

- 1 子
- 2 直系尊属
- 3 兄弟姉妹

このように、配偶者が常に一番大きい法定相続分となり、

と相続順位が下がるにつれて、法定相続分は小さくなります。

なお、相続人に配偶者しかいない場合や、直系尊属、兄弟姉妹しかいない場合は、そのグループが相続財産の全部を相続することになります。



そのような事態にならないためには、法律で決まっていると安心せず、やはり遺言を作成することをおすすめします。



法律相談を募集しています

読者の皆さんの「弁護士に相談したい」と、「障がいの当事者または家族であるが弁護士に聞いてみたい」などを法律相談を募集しています。詳細は27ページにある「法律相談募集要項」を参照してください。なお、相談の内容は、個人が特定できない形で回答とともに記事として掲載させていただく場合があります。また、全ての相談に対して回答できるものではないことを、予めご了承ください。

※本募集は一般財団法人メルディアが行うものであり、表参道パートナーズ法律事務所とは直接の関係はありません。



募集&告知

各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に伺う「訪問先」を募集しています。また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

イベント情報&店舗情報・募集など

障がい者が働く企業や団体からの情報や告知

障がい者が働く施設や団体のイベント情報、その他の情報、各種の告知、一般財団法人メルディアからのお知らせなどを掲載しています。

布施博&大矢真那の訪問先／取材先を募集しています



障がい者を雇用する企業や団体、障がい者施設、学校、場所、スポーツ会場などへ布施博または大矢真那が直接お伺いして取材させていただき、本誌にてご紹介いたします。

■応募条件

障がい者を雇用している(雇用予定を含む)企業や団体、障がい者施設(学校を含む)、障がい者が活躍されているスポーツ団体、スポーツ大会、地域、場所など

■お問い合わせ

下欄にある「一般財団法人メルディア」事務局まで電話またはメールなどにてご連絡ください

※取材に関して費用等は一切かかりません



募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア(本誌)」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などの募集ことや告知などをP27の情報ページに無料で掲載しています。「障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、下記の一般財団法人メルディア事務局までお問合せください。掲載に関しましては情報ページ用の「フォーマット」をご用意してあります。フォーマットに則して広告内容を準備していただく必要があります。掲載基準ならびに掲載フォーマットにつきましては事務局までお問い合わせください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、冊子の配置協力をお願いしている各企業の基準に抵触する内容、営利目的のみの内容、特定の宗教や信条に関わると判断される内容、反社会的と判断される内容、公序良俗に反する内容等については掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦労や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦労、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援(取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付)など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F
一般財団法人メルディア 事務局/担当:後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか)宛て
TEL: 03-5381-3213 / MAIL: org@gf-meldia.com



ホームページと Facebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん! Facebookページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。

hikari no café 大田原市庁舎店 hikari no caféの新店がオープン



■場所
栃木県大田原市本町1-4-1
大田原市庁舎1F

■営業時間
10:00~15:00

■定休日
土・日・祝・年末年始

※市庁舎の開庁日に準じます

■店舗紹介
「hikari no café 大田原市庁舎店」はテイクアウトを中心としたカフェです。大田原市庁舎へ来庁の際はぜひご利用ください。

■http://www.hikarinocafe.com/



Cafe

法律相談を募集 弁護士が相談を承ります

読者の皆さんや障がいの当事者またはご家族の人たちが弁護士に相談したい事、聞いてみたいことなどがありましたら当誌の事務局まで住所、氏名、連絡先、相談概要などをお送りください。本件の法律相談は無料でを行います。

【必ずお読みください】

※応募に際しての記載事項などは個人情報保護の観点に則り、本件以外には一切使用いたしません。

※本誌に掲載させて頂く場合、個人を特定できない匿名の相談内容として記事にいたします。

※相談の受任可否についてはお答えすることができません。

※全ての相談に対して回答するものではありません。

氏名、連絡先、相談概要などを以下に記載の住所またはメールアドレスまでお送りください。

■応募先/郵送の場合
〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F
一般財団法人メルディア事務局/法律相談係 宛て

■応募先/Eメール
MAIL:org@gf-meldia.com
※件名(Subject:)に必ず「法律相談」とご記入ください

Recruitment

お便り募集!

あなたが知りたいことを
あなたに代わって編集部が調べます

読者の方々が障がいに関して「知りたいこと」、「疑問・質問」、「法的な情報」、「扶助情報」などをみなさんに代わって編集部が調べ、取材し、記事にしたいと思えます。「こんなことを調べて欲しい」、「こんな情報があるが詳細が知りたい」など、どんなことでも構いません。左ページに記載の「一般財団法人メルディア事務局」まで、メールまたは郵便にてお送りください。

※お寄せいただくご要望の全部にお応えすることはできません。また、掲載する記事に関してはメルディア事務局ならびに編集部にて選択させていただきます。予めご了承ください。



一般財団法人
MELDIA

本ページに情報を無料で掲載しています。情報掲載を希望される場合は左ページ(P28)の情報掲載要項を良くお読みになり、一般財団法人メルディア事務局までお問い合わせください。掲載ガイドラインや記事のフォーマット等に関する一般財団法人メルディア事務局までお問い合わせください。 ※無料掲載規定に合致しない案件は掲載をお断りする場合があります。予めご了承ください。





湘南ベルマーレ

ホームゲーム観戦チケットプレゼント



©湘南ベルマーレ

■ホームゲーム一覧

| 開催日 | キックオフ | 対戦相手 | 申込〆切 |
|----------|-------|-----------------|----------|
| 5/22 (水) | 19:00 | 北海道 コンサドーレ札幌 | 5/8 (水) |
| 5/31 (金) | 19:00 | 横浜F・マリノス | 5/17 (金) |

療育手帳・精神障害者
保健福祉手帳をお持ち
の方と、介添者の方1
名を湘南ベルマーレ
ホームゲームに抽選で
ご招待いたします！

■応募から観戦までのステップ

STEP 1

応募

HPの応募フォームへ
必要事項をご入力



応募フォーム
はこちら

<https://meldia.org/present/>

ホームページからも応募できます

財団 メルディア 🔍 検索

STEP 2

メール

応募完了メールが
届いたら受付完了

ドメイン指定をしている方は「org@gf-meldia.com」を指定メールアドレスに追加してください。応募後、5日経っても応募完了メールが届かない場合は恐れ入りますが下記お問い合わせ先までお電話ください。よろしくお願いいたします。

STEP 3

抽選

当選者へチケットを
お送りします

当選者の方へ当選メールを送信後、応募フォームにご入力頂いた住所宛にチケットをお送りいたします。当選発表はメールの送付をもってかえさせていただきます。

STEP 4

観戦

スタジアムへGO！

チケットに記載のゲートよりご入場ください。どうぞ観戦をお楽しみください！



※当財団はチケットプレゼントのみ提供いたします。試合当日のご案内はいたしかねますので予めご了承ください。なお、会場内で生じたトラブル等に関しては一切の責任を負いません。あわせてご了承ください。

ACCESS

Shonan BMW スタジアム平塚へのアクセス 詳細は湘南ベルマーレ HP をご覧ください



JR 東海道線平塚駅、小田急小田原線伊勢原駅よりシャトルバス、路線バス運行



圏央道寒川南 I.C. より湘南銀河大橋、国道 129 号線経由で約 15 分 (国道 129 号線に随時「総合公園」の看板あり)

駐車場は台数に限りがありますので予めご了承ください。

■お問い合わせ先■

〒243-0292 神奈川県平塚市
一般財団法人メルディア 事務局 担当：後藤・鷺坂
TEL 03-5381-3213 受付時間▶月曜日～金曜日 9:30～18:30

※抽選結果に関するお問合せにつきましてはお答えしかねますのでご了承ください。

18 MELDIA CONTENTS 2019 JUNE

01| 障がい者を応援

シャロームみなみ風/東京都新宿区

06| 一般財団法人メルディアとは?

メルディアの基本理念、財団概要、支援事業

07| 布施博が訊く

新宿あした会/東京都新宿区

11| 障がいとアート

伊藤七男×渡邊希望のアーティスト対談

15| 水越けいこ連載「M size / はじまり」

水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る

17| 障がいとスポーツ

e スポーツのプロを目指す障がい者取材

21| つむぐ ～こえをきく～

脚本家・渡邊希望が障がい者の「声」を聞く

25| 弁護士が教える「障がい者と法律」

表参道パートナーズ法律事務所/弁護士・安部晃平

27| イベント情報と店舗情報・その他

障がい者が働く施設や店舗の情報、募集など

28| 募集と告知

取材先募集と協賛の募集など

月刊MELDIA 17号の11ページに掲載の「日本ソーシャルフットボール協会」記事内で真庭大典監督との記述がありますが、奥田巨監督の誤りでした。関係各位に対して謹んでお詫び申し上げます。(編集部)

月刊MELDIA Vol.18 / 2019年4月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア事務局

発行人 / 小池信三

事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章

編集 / 株式会社サン・オフィス

編集人 / 東宮恵美

編集長 / 山口慎市

進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝亘介

編集部 / 東宮恵美、村田保則、都筑亮太、渡邊希望

ライター / 水越けいこ、布施博、大矢真那、安部晃平

山口慎市、渡邊希望、横関寿寛、大橋はるか

カメラマン / 吉岡晋(PMJ)

ヘアメイク / 株式会社Dharma

デザイン / 有限会社フレッシュ・アド

印刷製本 / QREAS株式会社

協力 / MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計

社会福祉法人 南風会、シャロームみなみ風、廣川美也子

社会福祉法人 新宿あした会、西早稲田あした作業所、小山元太

ギャラリーファンタジア、伊藤七男

株式会社ワンライフ、iba-sho、One Game、中村恭子

表参道パートナーズ法律事務所

株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ

株式会社PHOTO MIO JAPAN

株式会社Dharma

※敬称略/順不同

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2019©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア/月刊MELDIA
MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計 / 株式会社 サン・オフィス



次号予告

MELDIA VOL.19

2019年5月25日 発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632

東京都新宿区西新宿 1-25-1

新宿センタービル 32F

一般財団法人メルディア 事務局

TEL: 03-5381-3213

MAIL: org@gf-meldia.com

